



相人芝下 模形居座中

しもなかざ

しばい

にんぎょう

さがみ

国指定重要無形民俗文化財

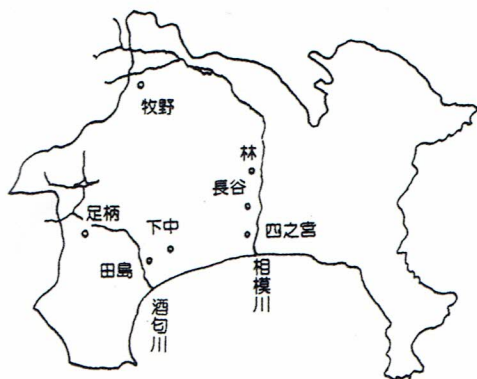
下中座事務局 〒256-0816 小田原市酒匂1-6-15-N

Tel:0465-44-4573 座長：林 美禰子

ホームページ：<https://www.shimonaka-za.com/>



相模人形芝居とは



相模人形分布図

神奈川県には、江戸時代から明治にかけて、少なくとも15ヵ所に三人遣いの人形芝居があった。分布地域は県下でも旧相模国に限られ、①厚木を中心とする相模川流域、②小田原を中心とする酒匂川流域、③甲州街道沿いの津久井牧野の3つの分布圏に分けられる。が、その師系を通じ、深い交流があった。

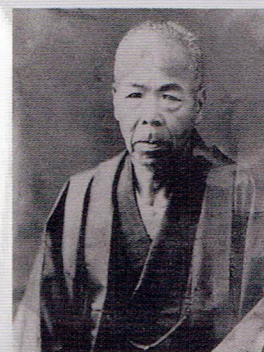
県文化財専門委員であられた故・永田衡吉先生が、昭和26年から28年にかけて調査にあられた。当時江戸時代より引き続き活動を続けていた小田原市の下中座、厚木市の林座・長谷座の三座は、人形の操作とカシラの構造に“鉄砲ざし”と呼ばれる特徴を持ち、既に無くなっていた東京の人形浄瑠璃の面影を伝えていた。そのため三座は『相模人形芝居』の名称のもとに、昭和28年に神奈川県無形民俗文化財に指定された。さらに昭和55年には国の重要無形民俗文化財に指定された。また、戦時中いったん途絶え、戦後復興した平塚市の前鳥座、南足柄市の足柄座の二座も、昭和57年に県無形民俗文化財に指定された。現在この五座で相模人形芝居連合会を結成し、年に一度相模人形芝居大会を開くなど、研鑽に努めている。

伝承によれば、290～300年前、上方の人形遣いが長く逗留して始めたという。が、カシラの制作年代は、宝暦～天明(1751～1789)と思われるものが最も古い。近郷にまで名を知られ、天保改革(1841～1843)による諸芸禁止の折にもこっそり上演していたという。

江戸の頃の師匠は不明だが、維新後に東海道筋の人形元締の一人となった吉田金花・駒十郎父子が来訪し、稽古をつけたと言われている。その後明治末期になって、東京の人形遣い、吉田冠十郎・吉田国五郎・西川伊三子(のちに改名・伊左衛門)が訪れ、伊三子が小竹に定住するに及んで、活況を呈した。伊左衛門は小竹の人形はもちろん、近隣の長谷・林・四之宮(現・前鳥座)にも熱心に指導に通った。

“小竹の人形”と呼ばれ、地域の人々に愛されてきた下中座(昭和28年、永田先生による命名)だが、高度成長期からの社会の急激な変化は若者の人形芝居離れを呼んだ。座の存続に危機感を抱き、小田原市などの協力で様々な後継者育成事業が行われた。が、昭和60年頃には座員不足で、前鳥座の協力をえて公演にのぞむようになった。

下中座略史



相模人形芝居中興の祖
西川伊左衛門

下中座の新しい歩み

後継者育成の切実な願いで、平成3年5月「下中座相模人形教室」を開設した。その受講者の中から17名が座員として加わった。月2回、土曜日の午後練習を続け、現在は下中座の中核として活躍している。また、平成29年5月には「第

2回下中座相模人形教室」を開設し、その受講生6名も新たに座員として加わっている。

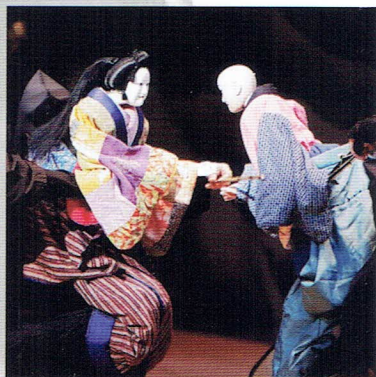
また、昭和55年より演技指導を続けている神奈川県立二宮高等学校相模人形部も6回の全国大会出場、NHKテント2000公演、北京公演など、めざましい活躍をしている。下中座との連携も順調で互いの公演への協力出演も多い。卒業生が下中座に入座することも増え、現在33名の座員のうち11名が相模人形部の卒業生である。

平成14年11月には、地域密着を願って地元の小田原市立橋中学校に相模人形クラブを立ち上げた。足柄山の金太郎をモデルにした新作『坂田金時 怪童丸物語 足柄山の段』を中学生のために作り、毎年数回の公演を続けている。平成20年には高校生のための『下鴨神社の段』を発表。平成25年には下中座のための『金時誕生の段』が初演を迎えた。これで新作『坂田金時 怪童丸物語』が完成することとなった。また、地元の小田原市立下中小学校に平成24年に下中座クラブが生まれた。学校教育の場で活動できることに感謝し、大切に育てていきたいと頑張っている。下中小学校下中座クラブは特別練習も加えて年14回の練習と年2回の公演。橋中学校相模人形クラブは月2回の練習と年3～4回の公演。二宮高校相模人形部は週1回の練習と年4回ほどの公演。下中座は月2回の練習と年15回ほどの公演を行っている。

一下中座の3つの活動

1. 相模人形浄瑠璃 公演活動

下中座の座員は約30名。ほとんどが職業を持っていますが、お互い助け合って稽古を重ねています。相模人形5座の合同公演、ラスカ小田原などの定期的な公演に、他団体からの依頼を合わせて、毎年15回前後の公演を行っています。



相模人形芝居大会 公演 (H24)



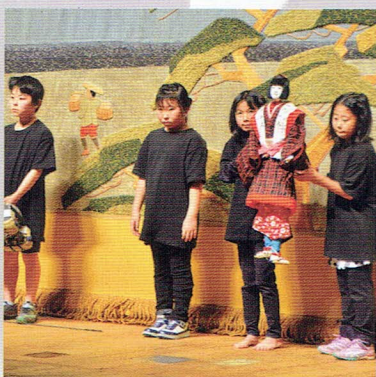
日本民家園 公演 (H25)



小竹公民館 公演 (H31)

2. 継承者育成活動

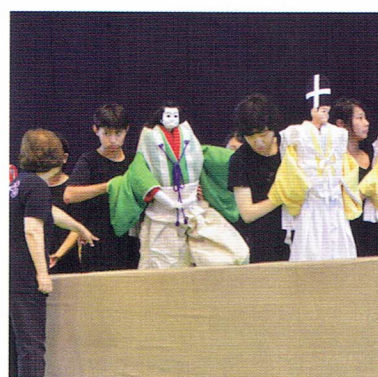
3人遣いの人形浄瑠璃は、子供たちが協力して一つのことを成し遂げることで、チームワークを学ぶ良い機会となります。下中座は近隣の学校と協力して、教育支援を行うとともに、地域の伝統文化の承継者づくりを実践しています。



小田原市立下中小学校 下中座クラブ
後継者育成発表会 (H30)



小田原市立橋中学校 相模人形クラブ
後継者育成発表会 (H30)



神奈川県立二宮高等学校 相模人形部
全国高等学校総合文化祭のリハーサル風景
(H29・宮城大会)

3. 新演目創作活動

歴史ある人形浄瑠璃の演目以外に、現代の子供達が演ずるのにふさわしい、足柄山の金太郎を主人公にした「坂田金時 怪童丸物語」を創作しました。また、地域に由来する「曾我物語」など、新しい演目の創作に取り組んでいます。



坂田金時 怪童丸物語 足柄山の段
中学生が演じて楽しい、旅立ち編



坂田金時 怪童丸物語 下鴨神社の段
高校生のために作られた新作。青春編



新作「曾我物語(仮称)」只今創作中
小田原の魅力の世界に伝える新演目

じよさんばそう
①序三番叟

舞台の無事と成功を祈って幕開けに奉納される。上演時間6分ほどだが大切な演目。



えほんたいこうき
②絵本太功記 尼ヶ崎の段

『太十』と愛称される人気狂言。地元では“操のくどき”などで、客席から義太夫の合唱がおこることも。



めいぼくせんたいはぎ
③伽羅先代萩 御殿の段

飯炊きと呼ばれる場面。茶道の心得も必要。政岡の心情を少ない動きで表現する難しい演目。



④伽羅先代萩 政岡忠義の段

主君を助けるため進んで命を捨てた千松。わが子の亡骸を抱いて嘆く政岡が痛ましい。



けいせいあわ
⑤傾城阿波の鳴門 巡礼歌の段

いたいけな巡礼の娘が、わが子お鶴と悟りながらも名乗れぬお弓の苦悩。泣かせます。



ほんちやうにじゅうしこう
⑥本朝廿四孝 十種香の段

勝頼を慕う八重垣姫が可憐。チョイ役の白須賀や原も勇壮で人形遣いたちには人気。



つぼさかといげんき
⑦壺坂靈験記 沢市内から山

美しき夫婦愛の物語。観音様のご利益で二人の命も助かり、沢市の眼も治る、嬉しい結末。



しょうつうあさがおぼなし
⑧生写朝顔話 宿屋の段

恋人を尋ねてさすらい、眼を泣きつぶした深雪。想いの激しさがドラマを生む。



⑨生写朝顔話 大井川の段

やっとなめぐり逢えた恋人を追う深雪を、大井川の流れがはばむ。



いちのたにふたばぐんき
⑩一谷嫩軍記 熊谷陣谷の段

平家物語の『敦盛の最期』が見事な人形浄瑠璃に変身。“熊谷の物語”が圧巻。



下中座 上演演目

(平成30年現在)

かまくらさんだいき
⑪鎌倉三代記 三浦列れの段

大阪夏の陣を題材としている。三浦之助の雑兵との殺陣、時姫の後ろ振りなどが見どころ。



すがわらでんじゅてならいかのみ
⑫菅原伝授手習鑑 寺子屋の段

道真の子・菅秀才の身代わりにわが子を差し出した松王夫婦。“いろは送り”の華やかさが哀しい。



ごしよざくらほりかわようち
⑬御所桜堀川夜討 弁慶上使の段

一目逢いたいと願った父親と知らずに弁慶に殺されるしのぶ。主君のためにわが子を手にかけなければならなかった弁慶の苦悩は深い。



たまものまえあさひのたもと
⑭玉藻前囃袂 道春館の段

約束を違えた金藤次に振りかざされる萩の方のなぎなた。この立ち回り二人の姫による双六が見どころ。



おうしゅうあだちがほら
⑮奥州安達原 袖萩祭文の段

ふりしきる雪の中、持病の癪に苦しむ母・袖萩に自らの着物を着せかけ、必死に看病する娘・お君がいじらしい。



まかたきんとき かいどうまるものがたり
⑯坂田金時 怪童丸物語 足柄山の段

足柄山の金太郎を主人公にした新作。中学生が演じて楽しく、子供たちが観て楽しい作品を目指した。旅立ち編。



⑰坂田金時 怪童丸物語 下鴨神社の段

都で源光頼に仕えた怪童丸の活躍を描く。高校生のために作られた新作。青春編。



⑱坂田金時 怪童丸物語 金時誕生の段

再び足柄山に戻り、頼光より坂田金時の名をもらい、怪物を見事退治する。が、母との別れが待っていた。下中座用に作られた新作。完結編。



はですがたおんなまいぎぬ
⑲艶容女舞衣 酒屋の段

「今頃は半七つあん どこにどうしてござろうぞ」の名セリフで知られる人気演目。つれない夫・半七を心から慕うお園の姿が涙を誘う。

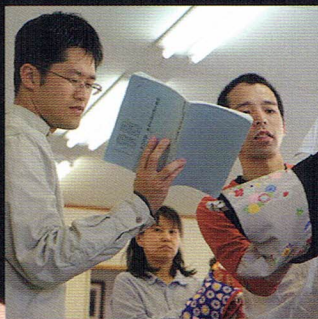


⑳曾我物語(仮称)

2020年東京オリンピック・パラリンピックの年の5月に初演をめざしている。小田原の魅力を世界に広める下中座の新作、創作中。こうご期待。



— 私たちのこだわり —



三冊の演技台本

下中座では、西川伊左衛門から直接指導を受けた、故・小澤孝蔵氏の教えを3冊の演技台本にまとめ、テキストとして使っています。下中座の演技の特徴をきちんと後世に伝えるためのこだわりです。



本物の美しい人形

人形用具についても、伝承されている用具の検証に基づき、できる限り本物にこだわっています。人形は1体約130万、高価でなかなか更新できませんが、次の更新が50年後になっても参考にできるものを残したいと考えています。



裏方もプロの技術

人形用具の修理、髪結いなどの裏方の仕事も重要です。髪を振りほどく演目もあり、結いなおすことが必要です。プロから指導を受け、高い技術の習得にもこだわっています。



楽しく助け合って活動

人形を遣う楽しさ、舞台を創る喜び、公演で触れあうお客様との心の通い合いに胸をはずませながら活動を続けています。基本の月2回の稽古日も、和気あいあい、見学も大歓迎です。

— 団体概要 —

相模人形芝居 下中座

(旧名称)「小竹の人形」(江戸時代後期～) / 「小竹郷土人形藝術団」(太平洋戦争終戦直後)

【所在地】神奈川県小田原市小竹

【発祥】江戸時代中期～後期(伝承による)

【活動】相模人形芝居の伝承及び上演

【発信】インターネット上では下記の情報源により情報発信を行っております。

(1) ウェブサイトのホームページ <https://www.shimonaka-za.com/>

(2) 公式ブログ

(3) SNS  Facebook (@Shimonaka.Za)

 Twitter (@shimonaka_za)

 Instagram (@shimonakaza)

下中座では活動を支援していただける寄付を募集中です。
下中座に参加したい、寄付したいなどのお問い合わせは
★ホームページの「お問い合わせ」から、または、下記にご連絡ください。

下中座事務局

〒256-0816 小田原市酒匂1-6-15-N Tel:0465-44-4573

座長：林 美禰子 ホームページ：<https://www.shimonaka-za.com/>